

令和7年度 学校評価

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ わからない ■

(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		考察
1 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進 学校は、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実に努めていると思いますか。 (感動・感謝、郷土愛、いのちを大切にする心、こどもの体力向上、基本的な生活習慣など)	2 自ら学びに向かう力を育む教育の推進 学校は、こどもが自分で考え、自分から取り組む授業づくりに取り組んでいると思いますか。	1については、保護者と児童ともに、昨年度より肯定的な回答の数値が上がっている。「生命を大切に学校」として継続的に取り組んできたことが児童や各家庭にも浸透してきている結果と考える。本校の根幹を支える部分といえるので、今後も歩みを止めることなく「生命を大切に学校」としての取組を継続していきたい。 2については、保護者、児童、教職員ともに9割近くが肯定的な回答をしている。ただ、教職員の回答は「どちらかといえば、そう思う」が最も多いため、こどもが自分で考え取り組む授業作りについては更なる改善が必要である。引き続き、一人一人の教職員が子どもが自ら学びたい授業づくりの工夫を進めたい。
(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		
3 社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進 学校は、学校生活や地域社会をよりよくするために考えたり、行動したりするこどもの育成に、取り組んでいると思いますか。(児童会・生徒会活動、学校のきまり見直し、地域のよさを伝えたり課題解決したりする取組、ナイスライ(中学校)など)		3については、保護者と教職員は、9割以上が肯定的な回答をしているが、児童の肯定的な回答は8割に届いていない。児童が取り組んでいる活動が、学校生活をよりよくしたり課題解決したりしていることを実感できるような言葉かけや価値付けを、教職員が意識的に行うなどの工夫が必要である。 また、委員会活動では例年通りの活動内容を踏襲するだけでなく、前年度の内容を参考に児童が自ら考えて作り上げるような活動を行い、児童がやりがいを実感できるような工夫が必要と考える。
(2) こども一人一人を尊重した教育の推進		
4 5 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実		
学校は、こどもが、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくりを行っていると思いますか。	学校は、こどもが、対話などを通して、他の人の考えや意見を自分の学びに生かすような授業ができていると思いますか。	生活科や総合的な学習の時間、学級活動では、こどもたちが課題を見出し、どのような方法で解決していくかを選んだり決めたりしながら学習を進めることが多く、児童の約8割がそのような学習スタイルを肯定的に受け止めている。ほかの教科に関しても、内容によっては子どもが学習方法を選びながら学習している。今後もさらに効果的に取り入れていきたい。 また、対話に関しては、すべての学習でどの学年も日々積極的に取り入れており、保護者、児童、教職員ともに9割近くが肯定的な回答をしている。今後も継続して対話を取り入れ、こどもたちが協働的に学びを深め、こどもが学びとる授業づくりをしていきたい。
(2) こども一人一人を尊重した教育の推進		
6 特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実	7 インクルーシブ教育の推進	
学校には、こどもが助けを必要とするときに、先生や友達から支えてもらえる温かな雰囲気があると思いますか。	学校では、こどもがそれぞれの違いを認め、お互いを尊重し合って共に学び合っていると思いますか。	6については、保護者、児童ともに肯定的な回答が約85%、教職員は100%が肯定的な回答をしている。定期的に行っている「きずなアンケート」や「心と体の健康チェックシート」を通して実態把握に努め、迅速に対応している結果だと考える。 7についても、6と同様の結果となっている。教職員間で共通理解に努め、学校全体で一人一人のこどもを見守り、関わり方の工夫をしている。今後も継続してこども一人一人を尊重した教育を推進し、支持的風土を作っていく。
		一方で、6も7も保護者、児童からは一定数否定的な評価も見られる。こどもが複数の教職員に相談しやすい環境を作ったり、教職員がインクルーシブ教育について学ぶ場を設定し、学んだことを実践し、その成果を共有していきたい。

(3) 最適な教育環境の整備		
8 安全・安心な園づくりの推進	9 地域や家庭と連携した教育環境の整備	
学校は、こどもの安全を守る環境の整備を進めるとともに、安全教育（生活・交通・防災など）に取り組んでいると思いますか。	学校は、地域や家庭の人と協力して、授業や行事などの教育活動を進めていると思いますか。	8については、保護者、児童、教職員ともに肯定的な回答が90%を超えている。毎月の安全点検や日頃からの環境整備はもちろんのこと、児童にも危険な箇所等について尋ねることで安全への意識が高まってきていると考えられる。また、繰り返し避難訓練に取り組むことで、自分の命は自分で守るという意識も高まっていると考える。
		9については、教職員は100%、保護者と児童も90%以上が肯定的な回答をしている。学校が行事の精選や縮小が行っている中でも、興味関心をもって参加、協力されていると考える。行事の内容や参加の働きかけ、周知方法など、今後もさらに学校が地域や家庭の人と協力し合えるよう進めていきたい。

(4) こどものいのちと権利の擁護		
10 こどもの最善の利益を守る環境づくり		
学校は、こどもの意見を反映させ、こどもの権利を守るとともに、こどもや保護者が相談しやすい学校づくりに取り組んでいると思いますか。		10については、昨年度に比べて、教職員の肯定的な回答が増えており、こどもや保護者の声に寄り添っていくとする意識の表れだと考える。一方で、保護者、児童の肯定的な回答は80%を超えているものの昨年度とあまり変わらず、一定の保護者、児童には教職員の思いが伝わっていない結果だと捉える。今後は、安心して相談できる体制づくりを強化するとともに、校則見直し委員会の経緯などを発信していきたい。

(5) 独自項目本校の教育		
11 生命（いのち）を大切にす教育の充実	#REF!	
学校は生命（いのち）を大切にす子どもの育成を進めていると思いますか。	#REF!	
		11については、保護者、児童、教職員ともに肯定的な回答が90%～100%であり、「命を大切にす学校」としての取組が浸透していると考えられる。一方で、保護者の「わからない」という回答が10%ほどあり、学校からの啓発不足や、保護者が家庭で実際に見るこどもの姿と学校からの発信とのギャップなどもあるのではないかとと思われる。学校保健委員会「すこやか会」などを通して積極的に発信に努め、個別の対応も行っていきたい。

#REF!		
#REF!		

来年度の具体的な取組について

総じて、どの項目に対しても肯定的な回答が多く、今年度も本校の教育活動に対して一定の評価をいただくことができたと感じている。昨年度気になっていた、教職員が「できた」と思っているのに、児童がそう思っていない項目についても、昨年度より肯定的な回答が増えた。熊本市教育振興基本計画の基本方針のトップに挙げられている「(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進」の3つの項目については、校内研修のやり方を見直して日々の授業改善に取り組んだり、総合的な学習の時間等で児童の主体的な活動をしっかり行ったりするなど、全職員で取り組んできた成果と考える。また、「6. 特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実」「7. インクルーシブ教育の推進」の項目では全教職員が肯定的な回答をしていることも成果である。来年度も、全職員で共通理解しながらの教育活動、こども一人ひとりに対する温かい言葉かけ、主体的に考える力を付ける授業づくりなど、しっかり取り組んでいきたい。

小中学校関係者評価

学校評議員には、今年度も全項目に肯定的な評価をいただくことが出来た。特に「2. 自ら学びに向かう力を育む教育の推進」の項目は全評議員より「そう思う」という評価をいただいた。また、「こどもが、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくり」は昨年度最も評価が低かった項目であったが、今年度は半数の評議員より1段階上の評価をいただくことができた。一方で「3. 社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進」の項目は、昨年度より少し評価が低かった。この項目は児童の否定的な回答が最も多かった項目であり、来年度、早急に改善策を講じる必要がある。